

出題 螢雪ゼミナール

岐阜駅前校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

以下の文章は「枕草子」の中で「端午の節句」について書かれた一節です。後の問に答えましょう。

空の気色、曇りわたりたるに、中宮などには、縫殿より御薬玉とて、色々の糸を組みさげて参らせられたれば、御帳たてたる母屋の柱に左右に付けたり。九月九日の菊を、あやしき生絹の衣に包みて参らせたるを、おなじ柱にゆひつけて月ごろある、薬玉にときかへてぞすつめる。また、薬玉は菊の折みであるべきにやあらむ。されど、それはみな糸を引き取りても結びなどして、しばしもなし。

問1 薬玉を取り付けた柱には、もともと何が取り付けられていたのでしょうか。

問2 清少納言はなぜ、薬玉はすぐに柱からなくなってしまうと考えたのでしょうか。

豆知識 雑学コラム

端午の節句、平安時代は？

今日は端午の節句についてみていきましょう。現在、端午の節句というと、こいのぼりを飾るなど男の子の祭りという印象が強い年中行事かと思えます。しかし、この男の子の祭りとしての端午の節句は、武士が活躍した鎌倉時代以降に広まった風習で、こいのぼりを飾るようになったのは江戸時代以降のことです。では、鎌倉時代より昔の平安時代にはどのような端午の節句をお祝いしたのか、枕草子から読み取ってみましょう。

今日は端午の節句についてみていきましょう。現在、端午の節句というと、こいのぼりを飾るなど男の子の祭りという印象が強い年中行事かと思えます。しかし、この男の子の祭りとしての端午の節句は、武士が活躍した鎌倉時代以降に広まった風習で、こいのぼりを飾るようになったのは江戸時代以降のことです。では、鎌倉時代より昔の平安時代にはどのような端午の節句をお祝いしたのか、枕草子から読み取ってみましょう。

上の文では、清少納言が仕えている中宮定子が、縫殿から「薬玉」をもらうところから始まります。縫殿とは、宮中の衣服など縫いものをする機関のことです。「薬玉」は様々な薬草を縫って玉にしたもので、厄除けの意味で端午の節句に飾られていました。現在でも、お店の開店などのセレモニーで「くす玉」を割ることがありますが、その由来は、この厄除けの「薬玉」だったんですね。

さて、もらった薬玉を中宮定子はどうしたのでしょうか。上の文では「あやしき生絹の衣」に包まれた、柱に「月ごろ」飾ってある菊の替わりに飾ったと書かれています。「あやし」は「粗末な」、「月ごろ」は「数か月」という意味が古文であることを踏まえると「粗末な布に包まれた数か月前の菊」と現代語訳できますね。なんとなくみてもない感じがしてしまいますね。この菊に替えて飾った薬玉ですが、菊の花のように長く飾られることはないようです。薬玉に使われている糸を他のものを結ぶのに使ってしまうため、すぐになくなってしまいますと清少納言は述べています。糸を他のものに使ってしまうのは、薬草のいい香りがするからでしょうか。中宮定子の周りの普段の様子子が垣間見られる一節だと思えます。

今日、5月5日は端午の節句です。時代によって端午の節句の過ごし方は変わっていきませんが、皆さんはどう過ごしますか？

【解答】

問1 薬玉を取り付けた柱には、もともと何が取り付けられていたのでしょうか。
問2 清少納言はなぜ、薬玉はすぐに柱からなくなってしまうと考えたのでしょうか。